

令和3年度 奈良県立二階堂高等学校 学校評価計画表

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標
学習指導	学力の向上	BUT や普通の授業の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」の GPA3.1 以上。 資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。 各種検定受検数 500 名以上。
	教科指導力の向上	指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICT を活用した授業づくりを進める。 生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」の GPA3.0 以上。
生活指導	規範意識の向上	挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守り全体の中の一人である意識を持たせる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を継続する。 問題行動による指導件数について昨年度比 10%減をめざす。
	基本的生活習慣の確立	時間を大切にする指導を徹底し、けじめある行動を心がける。さらに遅刻の減少に取り組み、遅刻数について昨年度比 10%減を目標とする。 学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間の不統一のない指導を展開する。
	生徒理解と家庭との連携	家庭訪問に代えて実施した中学校訪問で得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」の GPA3.5 以上。
情操指導	読書週間の定着	読書週間中のお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(図書館イベントやお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)
	文化行事の充実	生徒からの意見を活かした文化鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。
	環境美化意識の向上	クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率90%以上)
	奉仕精神と勤労観の育成	生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動を継続し、参加延べ生徒数 200 名以上を維持する。 年間を通して各クラス年1回の通学路清掃を実施する。

健康管理	生徒の体力の向上と健康維持	感染症対策を徹底しながら、安全な体育行事が開催できるように企画運営をする。
		心身ともに自己管理を促し、保健室利用を昨年度より10%減を目指す。
		感染症予防として、消毒液や手洗い用洗剤の補充を確実に実施する。
		感染症予防の正しい知識を理解させ、適切な行動選択ができるよう指導する。
食育の充実	朝食の必要性を重点的に伝え、朝食の欠食率を各学年10%減らす。食育に関する保健だよりを年間9回以上発行する。	
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	サクセスセミナーへの参加を促す。外部講師を活用し、内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対して、定期的にセミナーを実施し、該当生徒100%の参加を目標とする。
保護者等との連携 地域・	学校関係者との連携	PTA新聞を発行する。総会、研修会、乗車マナー指導等のPTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数5%増)
	学校評価制度の活用と充実	各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。(回収率90%以上)
	開かれた学校づくり	学校行事に保護者の参加を促進する。(参加者数5%増)学校ホームページの充実。
防災	安全教育・防災体制の充実	安全教育を実施し、避難訓練を行い防災教育の充実をはかる。また、定期的に安全点検を行う。
特別支援教育 人権・	生徒の人権尊重の意識の確立	インクルーシブ教育の推進を図るため、高等養護学校分教室と連携し、人権講演会や人権HRを充実させる。 人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取り組みを行う。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	個々の生徒の課題を受け止め、迅速かつ組織的に対応する。また毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。
国際理解教育	外国人生徒の支援体制の充実	奈良県外国人教育研究会と連携をとり、生徒の多文化共生社会に対する意識を高める取り組みを行う。
研究研修	各種校内研修の実施	特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携を強化し、合同の校内研修会を実施する。
		令和4年度入学生徒に関わる観点別評価の実施に向け、教科内の研修を実施する。

第1学年	基本的な生活習慣・規範意識の確立、進路を見据えた学習	社会人基礎力の基盤として、身だしなみや挨拶、時間を守ること、適切な言葉遣い等への意識を高めさせる。日常の声かけ・面談等を通して、生徒・保護者との信頼関係を構築する。
		「産業社会と人間」の授業等を通じて、自己の進路について考える。日々の授業・BUTを大切に、進路補習等にも積極的に参加させる。
第2学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	身だしなみや挨拶、適切な言葉遣いを自ら意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(令和2年度第1学年比10%減)
		授業・BUTを大切に、進学・就職ガイダンスや進路補習等に積極的に参加させる。
第3学年	将来のキャリアデザインを見据えた進路実現	生徒の進路選択のための説明会や進路補習、放課後の面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(令和2年度第2学年比10%減)
		「自己PR力」や「協働する力」などの社会人基礎力を身に付けさせる。
教職員の働き方	勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進	月ごとの出退勤時刻の個人統計を各職員が見直すと共に、超過勤務が目立つ職員、健康不安のある職員に対して管理職が面談の上、指導と相談を行う(月1回定期的に行う。)
		職員個々が週1回の定刻退勤日を設定し、所定の様式で管理職に申告する。申告通りに退勤できない職員には、管理職が適宜指導と相談を行う。
総合	教育活動全体の充実	保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.5以上。